



神経発達症（注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症） を有する患児やその養育者に対する遠隔診療を用いた 重症度評価の信頼性検討及び満足度調査



対象

臨床診断で

自閉スペクトラム症
または
ADHD
を満たすお子さん

年齢：6歳以上17歳未満

ご協力内容

- ・ **自記式アンケート（約35分）**
養育者の方に記入いただきます
- ・ **注意力検査：TOVA（約15分）**
お子さんに受けていただきます
- ・ **対面式診療（約45分）**
病院で検査者と対面で行います
- ・ **遠隔式診療（約45分）**
自宅でスマホアプリを用いて遠隔地
にいる検査者と行います
(対面と遠隔の間隔は2週-3か月)
- ・ **満足度調査（約5分）**

利益・不利益



メリット

- ・ 注意力検査（TOVA）を受けられる
- ・ 謝金：5000円分のQuoカード

デメリット

- ・ 検査の時間的負担
養育者の方：合計約130分
お子さん：合計約80分



背景・目的

- ・ 日本の児童精神科の専門医の数は圧倒的に不足しており、相談・診断までの**待機時間**が長い、通院継続が困難でドロップアウト率が高いなどの社会的課題があります。
- ・ 精神科医療は診察や治療の大部分が患者さんとの会話から成り立つため、遠隔診療（Telepsychiatry）の導入が進んできています
- ・ スマホを用いた遠隔診療ツールを用いた重症度評価が、対面で実施した場合と**同等なのか**、また養育者やお子さんに**受け入れられるのか**を検証することを目的としています

問い合わせ：
研究事務局 黒川
TEL: 03-5363-3492
Mail：
nesti2lab@gmail.com